

News Letter



■2013年10月10日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

授業科目でPBLを導入する教員へ教材開発費・授業開発費を支援する「PBL教育支援プログラム」に、本年度は11件が採択されました。本号では、シリーズ第9回として、学生総合支援センター宮崎冴子先生による「キャリア・イベント実践」の報告をします。



2012年度開講 「PBL教育支援プログラム」成果報告 (9)

「キャリア・イベント実践」

② PBLを導入する意図・目的

今、学生たちは激変の産業構造の中で将来の進路や生き方を決定するという課題に直面している。PBLを導入する意図・目的は、企業人の招聘や企業訪問・取材等のプロジェクトを学生自ら企画・運営して発信力、問題解決力、改革力、コミュニケーション力、リーダーシップ等を培うことである。

② PBLの方法・特色

- ① イベントに関わる理論や実例等の自己学習と共にPDCAサイクルのグループワークも重視する。
- ② 学生が自主的に問題解決し、他の学生へ発信する能力をつけるために討論に時間をかける。
- ③ 学生同士の話し合いで分担し、「報告・連絡・相談」を徹底し、期限までに責任を持って行う。

④ 「自分の言葉で話す」「メモを見ずに全体を見渡して話す」等を心得えて、臨機応変に行動する。

⑤ 異なる意見を受け入れて調整し、チームワークを高めるプロセスを大切にする。

② PBLの内容と経緯

今年度は受講生が少ない点や三重県からの要請を勘案して、PBLセミナーの目的とも合致することから三重県と連携した。三重県は平成24年度経済産業省中小企業庁主催「地域中小企業人材確保・定着支援事業」の助成を受け、それを三重県中小企業中央会が受託し、筆者の授業と連携した。内容は希望する企業等に学生レポーターとして中小企業の魅力を発掘し、再度訪問して学生目線で提言するという主旨である(表1)。

(裏面に続く)

表1 本授業におけるPBL「学生が行く！三重の企業の魅力発見」のスケジュール

1週目: 2012.10.3(水)	最初に「より深く学ぶ」を目標に企業訪問・取材に決定、皆で興味のある訪問先を複数挙げた。	9週目: 2012.12.5(水)	アカデミックフェアに発表すると決定し、発表内容や方法を話し合った。
2週目: 2012.10.10(水)	企画書について学び、各人で企画書を作成した。	10週目: 2012.12.12(水)	(株)長島観光開発なばなの里を訪問した。
3週目: 2012.10.17(水)	三重県から学生レポーターについて話を聞いて、この授業にも通じるので参加することに決めた。	11週目: 2013.1.12(土)	先週の振り返り。学生レポーターとして(株)希望荘と(有)海の幸魚長を訪問・取材した。
4週目: 2012.10.24(水)	(株)鳥羽水族館を訪問・取材した。振り返り。	12週目: 2013.1.16(水)	(株)希望荘に再度訪問し、学生目線で提言した。
5週目: 2012.10.31(水)	先週の振り返り。取材や報告書の役割を決めた。次の取材について話し合った。	13週目: 2013.1.23(水)	アカデミックフェアの資料を作成し、練習した。
6週目: 2012.11.7(水)	三重県水産資源課を訪問・取材した。振り返り。	14週目: 2013.1.30(水)	PBLセミナー公開発表会で口頭発表を行った。
7週目: 2012.11.14(水)	津地方裁判所を訪問・取材した。振り返り。	15週目: 2013.2.14(木)	アカデミックフェア2013で口頭発表を行った。
8週目: 2012.11.28(水)	三重県、三重県中小企業団体中央会、中小企業診断士と共に訪問企業について事前学習をし、ビジネスマナーも学んだ。		

実際に訪問・取材した企業等は、(有)海の幸魚長と(株)希望荘で、希望荘には再度訪問して、提言を行った。

別途、学生が希望する企業等に独自に企画書を送付・依頼して訪問・取材した先は(株)鳥羽水族館、三重県水産資源課、津地方裁判所、(株)長島観光開発なばなの里で、当日は担当学生が他の学生を案内し、終了後に振り返りを行った。

取材事例「お客様に癒しを！～(株)希望荘～」はじめに

現在の旅館業界は景気後退、原油高に加えインドア趣味の充実などから厳しい状況にあり、外国人観光客などの客層も確保することが発展の鍵という考えもあるが、三重県の希望荘は近隣のお客のリピーター率90%を誇る旅館である。

(1)企画目的

- ①高いリピーター率を誇る秘密や工夫は何か学ぶ。
- ②経営者から経営理念などを学ぶ。
- ③旅館業界の事業展開の鍵として、どのようなサービスを提供しているのか学ぶ。

(2)企業の魅力発見:高いリピーター率の工夫

①昔ながらのよき味

利用客は70代が多く、昔懐かしい癒しが人気である。たとえば、お客のテーブルから見える窯でご飯を炊くので、おこげなど昔のよき味が蘇り、視覚、嗅覚、味覚ともに郷土料理を楽しめる。

②部屋毎に違うレイアウト

昔の家をイメージした部屋に厠を再現し、また各部屋でデザインを変えて部屋を選択する楽しみがリピーター率を高める理由の一つである。

③経営者の仕事や社員への想い

「心のこもった笑顔で迎え、笑顔で送る」を経営理念に、お客のことを第一に癒しを提供する。社員1人ひとりの意見を積極的に取り入れている。たとえば部屋の机はすべて円卓である。これは掃除担当のパート女性の意見を採用した。宿泊数が少ない時は従業員や家族、友人を社員割引で利用を促し、お客と接する機会を与える。

(3)地域も、次世代も楽しめる魅力の展開

地域の協力で経営しているという感謝の気持ちを

サービスで返したいと半径1時間半圏内を中心に事業展開をしている。近所で収穫した食材で郷土料理のよさを味わってもらい、食文化を次世代に伝えている。キャンプ場や農家と連携した収穫・宿泊体験も実施し、地域興しに貢献する。

従業員の意見を積極的に取り入れて、常に近隣の住民、お客に寄り添ったサービスが提供できる。

年配者は「懐かしいものがある、また来たい」、孫の世代は「珍しいものがたくさんある。もっと見たい、知りたい。これはどのように使うの?」と家族間の会話を増やせることも魅力の一つである。

PBLセミナーの成果と評価

PBLセミナーは他の授業よりも過酷かも知れない。しかし、受講生たちが“化けるほどに”成長する成果がみえる。それは学生たちの責任で動かしていく授業で、終了時には「自分への自信を自覚する」からである。学生による評価を抜粋する。

・企画書、交渉等を自分たちで行ったので実践力がつき、就職へのきっかけを見つけた。経営者の熱い想いを知り、仕事への考え方が変わった。

・水族館は飼育だけでなく接客業でもあると知り、人と接する苦手意識を克服したいと履修した。

・潜水士と自動車免許だけでなく英語力が必要とか。ものの見方や考え方が変わり、対人関係能力も上がった。胸を張って社会に出て行きたい。

・自然豊かで世界に誇れる三重県の魅力をたくさん発見した。新しいことに積極的に挑戦する社会人になる。三重県民として世界に羽ばたく!

(宮崎冴子)

お知らせ

「三重大学版TA活用マニュアル」が配布されます。

マニュアルは両面刷りです。

片面は教員向けに「TAの活躍を促す6つのポイント」を、また、片面はTA向けに「学生を支援する6つのポイント」をまとめています。

教員とTAの協同、よりよい学習環境の整備等にご活用ください。

